

癌免疫療法の実用化後押しする IOC 療法研究会が発足

2016 年 10 月に第 1 回研究会を開催へ

2016 年 8 月 26 日 00:06

久保田文

癌免疫に関わる治療法の臨床試験や先進医療を支援し、実用化を促すため、IOC 療法研究会（Japanese Society for Immuno-Oncology and Regenerative Cell Therapy）が設立されたことが、2016 年 8 月 25 日までに本誌の取材で明らかになった。

IOC 療法研究会は、腫瘍免疫に作用する薬剤や癌ワクチン、免疫細胞療法など、癌免疫に関わる治療法の臨床研究や臨床試験、治験などの臨床開発において生じた臨床的疑問（clinical question）の解決に重点を置き、臨床開発を推進するための学術団体。2016 年 7 月 28 日、研究会を立ち上げるための予備会合で正式発足が決まった。

「基礎研究に重きを置いた日本がん免疫学会と異なり、より開発に重点を置く。臨床開発を活発化させ、一刻も早く患者へ革新的な IOC 療法を提供するために立ち上げた」（昭和大学臨床薬理学研究所臨床免疫腫瘍学講座の角田卓也教授、[関連記事 1](#)）。臨床開発の支援に関しては、「再生医療新法に準拠した臨床試験の支援やモニタリングを手掛ける他、倫理審査委員会（IRB）や認定再生医療等委員会の機能を持たせ、臨床試験の活発化を推進する」（角田教授）。

2016 年 10 月 20 日から横浜市で開催される日本癌治療学会学術集会に合わせて、第 1 回研究会を開催する予定。それまでに、研究会を一般法人法人化する計画で、臨床試験の支援業務による収益で運営を行う方針だ。

事務局は、昭和大学臨床薬理学研究所臨床免疫腫瘍学講座が務める。